42 期生

⑦知的障害者の保健衛生・看護

課題：安全で快適な環境づくりのために、支援員のすべきことは何か。また、あなたの業務を振り返り述べなさい。

平成9年、入所更生施設に勤務して15年間、現場サイドで言われ続けられている事は「施設臭のする施設はダメな施設」ということである。当初は「施設臭ってなんだろう」と思っていたが、年を重ねるに連れ、また他施設を見学しているうちに理解ができてきた。結論からすると、職員の手が入っていないことであると思う。もちろん、古い施設ではこの臭いを除去することは困難であるのかもしれない。しかし、その施設のサービスを受けている利用者のことを考えると、古いからという理由だけでは片付けられない。設備面も含め、施設に暮らす利用者が快適に生活できる方法を模索していきたい。

まずは、環境条件の調整として、採光・換気・湿度・騒音について考えていきたい。

採光については、陽が当たる環境を提供すること。居室から出ない生活は体にも心にもよくないことである。

換気については、部屋の窓を開け、空気の入れ替えをすること。カビやほこりを除去していく必要がある。

温度については、適度な状態を保つように配慮していくことが大切である。利用者には体温調整の難しい人もいるので、その利用者に合った調整が必要である。

湿度については、特に冬場は加湿器の設置や濡れタオルをかける等の工夫をしていくことが大切である。

騒音については、うるさい音が苦手な利用者への配慮が必要である。

次に生活環境として、居室・共同スペースがある。

居室については、その利用者に合った部屋作りをしていくこと。例えば、朝早く起きてしまう利用者の居室には遮光カーテンをつけて太陽の光が入らないようにすることや、物が気になる利用者の居室には物を置かないようにする。

共同スペースについては、多くの利用者が使用するので、事故の防止に努めたい。例えば、床が濡れていることによる転倒や段差での転倒等。こまめに職員が見ていくことが必要である。

次に居室管理として、トイレ・浴室がある。

トイレについては「施設臭」の要因の一つであるため、念入りに掃除をしていく必要がある。衛生的にも細菌が繁殖しやすい場所であるので特に気をつけていきたい。

浴室についても同様、とかく水回りは臭いを発してしまうので、十分な掃除が必要である。掃除後は水気を取り、転倒しないようにしていく配慮を忘れてはならない。

私が勤務している施設は月に２日、環境整備の日を設けて職員全員で取り組んでいる。食堂・廊下ワックスがけ・トイレ掃除・草刈り・浴室掃除等々。その時に汚れている箇所を掃除している。

PURC Site

その成果もあってか、来客者にはいつも「キレイですね」と褒め言葉を頂いている。しかし、キレイにしてもすぐに汚されてしまう。いたちごっこのようなものであるが、職員が諦めたらそこで終わりである。めげずに繰り返して掃除をしていくことは根気が必要であるが、それが支援員の役割ということを認識していかなければならないのである。

10年前の措置の時代には、比較的障害程度の軽い利用者が多く入所していたので、毎日掃除当番を決めて居住棟の環境整備を行っていた。現在は、その多くの利用者が地域移行したため同様の取り組みができていない。さらに職員の夜勤配置による１日あたりの職員数の減少が追い打ちをかけ、思うような環境整備ができていないのが現状である。毎朝自主的に早く出勤して門から掃き掃除とトイレ掃除を行っているがなかなか追いつかない。

我々支援員は、利用者の直接支援の他にも環境整備が重要であると考えている。環境を見渡せば危険因子を発見することができるし、汚いという感覚を身につけられれば、支援にも精通するものがあると思うからである。掃除をしっかりできる職員は支援もしっかりできるという考えは多少精神論ぽい気もするが、実際、当法人の職員を見るとその通りとなるのである。居室も担当制であるが、手の入っている居室と入っていない居室の差は歴然としている。要はその差を埋めていかないと利用者の満足は得られないのである。支援員によって利用者の満足度が違うことは本末転倒で、標準化にしなければならない。そのためには、支援員も同じような業務をしていく必要がある。時間がないからとか人がいないからというのは単なる言い訳で、利用者のことを思えばやる以外ないのである。

私はこの施設で暮らせるかと考えたとき、素直に暮らせると答えられるような施設を目指していく必要がある。保護者に対しても堂々と施設なの隅から隅まで見せられるようにしていくことが信頼を得ることに繋がると思う。そして利用者自らがこの施設を利用してよかったと思えるような環境作りをしていきたい。安心安全をモットーとして。

講評：

・「施設臭のする施設はダメな施設」思わずその通り!!と思いました。

・環境の具体的な要素は当然のことながらベースに置き、その上で係長としてのマンパワーの育成、管理業務、しかも自らが率先して現場で働くという実践、福祉を取り巻く10年間の変化もプラスして、私も勉強させてもらったレポートでした。